



小田 新紀 議員
(拓政会)



従前より、労働問題の観点から教員の多忙化、過重労働の大きな要因として部活動がある。教員の最も重要な仕事である授業の準備や学級経営への影響が出ている。近年では、生徒数減少に伴う教員数減少により、各学校に専門性を持った教員が配置されず、知識・経験ともに浅い部活動の担当顧問を強いられることも大きな負担になっている。また、生徒にとっても、知らず知らずのうち時間や体力、精神的な負担を強いられている。文科省においては、運動部活動のあり方に関する調査研究について予算計上しており、部活動の適切な練習時間や、休養日設定の考え方をまとめたガイドラインを策定する方針を示している。本町の今後の部活動のあり方に関わり、以下の点について伺う。

(1)本町において、部活動による教員、生徒の過重な負担についてどのように捉えているか。
(2)今後の軽減策と部活動のあり方

問 中学校部活動による教員・生徒の負担軽減策を
答 国の策定するガイドラインなど、今後の動向を注視し軽減策を研究していく

についての考えは。

教育長(1)中学校における部活動は、教育課程外の教育活動の一環として実施されており、生徒の健康管理や生活習慣には十分配慮し休養日を設けるなど、一日の活動時間などについて、生徒の学習の妨げとなることのないよう配慮するとともに、指導に当たる教員の長時間労働を改善し、教員への負担が過重にならないよう、可能な限り複数顧問制をとるなどの工夫に努めている。

(2)北海道教育委員会からの通知を受け、望ましい部活動のあり方として、①週1日程度は休養日を設けること。②授業日においては、生徒の下课や教員の退勤が遅くならないよう、放課後の2〜3時間程度で活動が終わるようにすること。③休日においては、早朝から終日にわたる活動を極力避け、半日程度でも効果的な活動ができるようにすること。④特定の教員に負担が偏らないよう、可能な限り

複数顧問の配置を検討すること。以上4点について学校に通知し指導している。教員の負担軽減に配慮しつつ、学校の実態に応じ、複数校合同による部活動や地域の社会教育団体、総合型スポーツクラブ等との連携などについても研究していきたい。

問 忠類地域で継続的な合宿などの誘致を
答 合宿に限らず幅広い観点で、誘客に努める



問 小学生から大人まで、各種団体等による合宿、大会に関わる遠征等が各地で行われている。こうした団体が求める宿泊先には、①仲間同士で過ごせる大部屋・大浴場。②宿泊先の夕食。③他のお客様に迷惑がかかりにくい施設。④北海道らしい大自然・牧場風景、といった希望もある。

忠類地域では、ナウマン温泉ホテルアルコ236が新たな体制のもと、さらなる施設利用の促進や地域活性化に大きな期待をされている。



忠類ナウマン温泉ホテル
アルコ236

る。立地的にも道外からの団体には帯広空港が近く、道内からは高規格道路出入口が近距離ということで、幕別本町や札内地域、帯広市街地と比較して時間的な差異はない。好条件をもつ忠類地域の強みを生かし、合宿等の誘致、広報活動を積極的に推進する考えは。



町長 忠類地域の屋内体育施設としては、老朽化した忠類体育館と小中学校の体育館にとどまるなど、合宿を実施するには十分とは言えない。また、合宿が主として行われる夏の期間は、宿泊施設もピーク期と重なり、総客室数17室のアルコ236の宿泊受入は困難な状況にある。どのような対応が可能か確認した上で町として判断していきたい。

る。立地的にも道外からの団体には帯広空港が近く、道内からは高規格道路出入口が近距離ということで、幕別本町や札内地域、帯広市街地と比較して時間的な差異はない。好条件をもつ忠類地域の強みを生かし、合宿等の誘致、広報活動を積極的に推進する考えは。